

3-13. 周南市（山口県周南市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

周南市は、山口県の東南部に位置し、北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を臨み、その海岸線に沿って大規模工業が立地し、それに接して東西に比較的幅の狭い市街地が続いている。北側には、なだらかな丘陵地が広がり、その背後の広大な山稜には農山村地帯が散在している。また、島しょ部は、瀬戸内海国立公園区域にも指定されており、美しい自然景観を有している。

人口：149,460 人（平成 26 年 1 月 31 日現在）

気候：周防山地以南は温暖少雨の瀬戸内型、その以北は内陸型

総面積：656.32km²【東西約 37km、南北約 39km】

（平成 22 年 10 月 1 日国土地理院調べ）

地域の概要：

徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の 2 市 2 町は、山口県東南部の周南地域に位置している。

周南は古くから周防の国の南部を示す言葉として、瀬戸内海を望む広い地域を指していて、温暖な気候と山海の幸に恵まれた豊かなイメージを彷彿とさせてくれる。

この 2 市 2 町は、市民生活、産業経済活動も極めて結びつきが深く、既存の行政の枠組みを超えて諸活動は一体的に展開されている。

昭和 39 年には、「工業整備特別地域整備促進法」に基づき、徳山市、新南陽市、熊毛町が周辺関係市町とともに「周南地区」として位置付けられている。

また、昭和 46 年には、国の「広域市町村圏振興整備措置要綱」に基づく「周南地域広域市町村圏」が設定され、相互の連絡調整や住民票の広域発行などの共同事務処理を行うほか平成 7 年には「地方拠点法」に定める「周南地方拠点都市地域」に指定され、周南関係市町とも協力連携を図りながら地域の一体化と均衡ある発展を目指した取り組みを進めてきた。

このように、2 市 2 町の広域的な取り組みでは、常に「周南」との地域名を冠していて、また社会活動や企業活動を営む様々な団体においても名称に「周南」が用いられていることも多く、地域の総称として一般的に定着している。



●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

周南市の背景は、山から里、海、島とあらゆる地域資源を有している。これらの地域資源を有効に活用する手法としてエコツーリズム事業があると認識している。

そこで、今回は、日本の各地の事例を周知されているアドバイザーを通して、周南市の素材を今一度現地確認し、それを元に具体的な取り組みまでできればいいと考えている。またそのきっかけづくりができればいいと考えている。

(2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 26 年 2 月 3 日（月）～平成 26 年 2 月 4 日（火）
場 所	山口県周南市立中央図書館及び中心市街地
アドバイザー	公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー 川嶋 直 氏
参加者	森の案内人の会、周南市観光ボランティアガイド、徳山動物園、新南陽総合支所、須金支所、 山口市地域づくり支援センター、山口市地域振興部中山間地域活性化推進室、ふるさと振興財団、 NPO 法人市民プロデュース、税理士法人 魁、子ども家庭課、中心市街地整備課、 コミュニティ推進課、文化スポーツ課他 計 29 名
スケジュール・方法	<p>【1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内散策（児玉源太郎ゆかりの地めぐり） 中央図書館周辺に点在する児玉源太郎ゆかりの地をめぐる 講義「エコツーリズムって何？」 エコツーリズムの基本について学ぶ 講義・実習「紙芝居プレゼンテーション“KP 法”に学ぶシンプル・明快な説明法」 シンプルプレゼンテーション&思考整理法“KP 法”について学ぶ <p>【2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演「私と児玉文庫」 午後からの企画実習に向け、児玉文庫の思い出や思いを語っていただく 児玉文庫関係蔵書めぐり（図書館内） 中央図書館にある児玉文庫関係の蔵書について説明を受ける グループ実習「児玉文庫の精神を活かしたまちづくり企画」 児玉文庫を活用したまちづくり企画を考え、KP 法等を使って発表 ふりかえり・わかちあい

(3) アドバイスの内容

●1 日目

- 最初に今回の素材である「児玉文庫」に関わるスポットを見学した。案内は、周南市の観光ボランティアの方にお願いした。(2 名) 2 グループに分かれて、少人数で説明が行き届くように案内された。
 - その後、アドバイザーにより、ワーキングがスタートする。
まず、参加者が関心のあるキーワードについて問いかけがあった。
- ① エコツーリズム②地域振興（地域おこし）③観光（観光産業）④環境保全（自然保護）⑤環境教育⑥ゆたかさ、しあわせ もっとも多かったのが、地域振興とゆたかさ、しあわせだった。それを皮切りに川嶋流 KP 法¹により様々な地域の取り組み事例が紹介されていった。⇔ 最初の導入

※¹ KP 法・・・紙芝居プレゼンテーションの略

- ・キーワードやイラストなどを書いた何枚かの紙（KP シート）をホワイトボードなどにマグネットを使って貼りながらプレゼンテーションを行う。
- ・KP シート 10～15 枚で 1 つのテーマを構成する。この 1 つひとつのまとまりを「KP セット」という。1 セットは、およそ 2 分から 5 分程度で話し終える分量
- ・プレゼンテーションは、与えられた時間に応じてこの「KP セット」を何セットか組み合わせて行う。
- ・基本的にパソコンなどのデジタル機器は使わない。
- ・KP シートの用紙や筆記具などは、すぐに手に入るものしか使用しない。

『KP 法』シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション 川嶋直著 みくに出版参考

- ・次に、それぞれの思いを実際に KP 法により作ってみようということになった。

4 グループに分かれて、自己紹介を KP 法で紹介

グループごとに各人のテーマを決めて、実際に KP 法を使って作成実習を実施

完成後にホワイトボードを使って、KP 法で実演した。グループごとに終了したら、他グループにもシェアし、共有した。

ふりかえりの中で、実際に見るとやるとでは、全然違うことを体験した。

数多く実践することで、技術として身に付け、まちづくり等に活用したいということで、ワーキングを終了した。

●2 日目

- ・実際に児玉文庫についてご存知の浅見道子さんに話を聞いた。

午前中は、浅見道子さんの話を聞き、この話は、戦時中の話でリアルな体験の話であり、郷土の名士である軍人 児玉源太郎が後世へ伝えるために、武道場ではなく、なぜ児玉文庫という私設図書館をつくったのかという思いを聞くことができ、その後の午後からのワークショップにおいて、その思いを参加者で共有し、今後のまちづくりの中でどう活かしていくかということで、具体的な取り組みについてワークショップを通じて話し合った。

※² 児玉源太郎が、児玉文庫という私設図書館をつくった思いとは？

- ・児玉文庫は、児玉源太郎の若い頃からの念願の末に開設されたものである。

源太郎は若い頃からの体験をふまえて、みずから学問の大切さを実感し、特に読書の必要性を感じたようで、早くから手元に本を集めて、是非郷土の若い人に読んで欲しいという夢を持っていたという。



児玉源太郎ゆかりの地を観光ボランティアにより現地案内、説明



川嶋氏の KP 法の講座



熱心に聴く聴講者



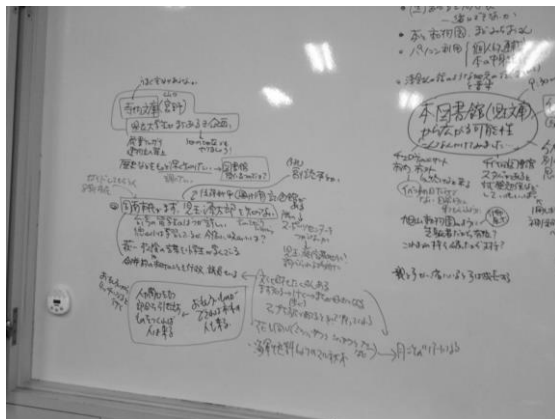
実践編 自分でやってみよう KP 法



浅見道子さん（86歳）の話を聞く



ワークショップの1シーン
(中央; 川嶋氏)



具体的な取り組み案を引き出す



最終的に意見が出揃い、まずは図書館を中心に組み
んでいこうということでもとまった。

(4) アドバイザー派遣実施の効果

●参加者や関係者に与えた効果

まず、KP 法というシンプルだが、わかりやすい手法を実践することで自分なりの整理の仕方、伝え方の手法を学んだことが収穫ではないだろうか。現地を見て聞いて、それを具体的な形にしていく手法を学び、それぞれの部署に持ち帰って実践することができるのではないかな。

川嶋氏よりボランティアガイドの改善点（気づき）を話していただき、指導する場面があった。今後ボランティアガイドの資質向上が期待できそうである。

- ・KP 法という手法を学ぶことで伝え方を教わったことは大きな収穫
- ・川嶋さんのパフォーマンスが価値あり
- ・やり方、テンポ、伝え方、簡潔で手短かに伝える手法を学んだ

●今後の期待される効果

今回は、児玉文庫という具体的な事例を元に、ワークショップを実践した。

今まで当たり前だったものが、伝え方によって大きく変容する可能性というものに参加者は感じたのではないかな。今まで見えなかったものが外からの視点でアドバイスいただき、意見交換し、共有し、振り返る、これらの一連の作業工程がいままで実践されていなかったことに気づき、今後新たに陽の目を当てていく可能性を見出した。

●今後の取り組み

今回は図書館を中心に実践したが、その図書館は情報の拠点であり、発信能力が高いことが分かった。ではまずここからスタートさせようということになった。

- ・街中図書館の実践 ex：カフェとかを巻き込み、図書館と連動させる。
- ・図書館で婚活、コンサート
- ・親子で体験できるようなしくみづくり

まず図書館で何かひとつ実践し、成功事例をつくりたい。まずはそこからスタートさせたいと考えている。

その後、他部署とのコラボを組みながら、エコツーリズムの拠点として成長させていきたい。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・身近なところに、素材はあり、タカラはあるという気付き
- ・伝え方がいいと成果が上がるということ
- ・人材育成が大事だということ
- ・全国の色々な取り組み事例を紹介いただいた事
- ・まさに実践者が語ることによって、可能性を見いだせるということ
- ・手法はシンプルにということを学んだ

●その他感想

- ・川嶋直という個性のあるアドバイザーのおかげで終始なごやかに、多くの学びができた感じがします。
- ・すぐにやれそうな気がしていること。
- ・その他 2 日間という貴重な学びの時間を共有できたことに感謝したいと思います。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー 川嶋 直 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

今回は山口県周南市中央図書館の徳永館長さんが中心となって、これからの周南市のまちづくりに「エコツーリズム」という考え方を取り入れて行けたら、という模索段階でのアドバイザーの派遣であった。しかし、周南市には以下にも触れるが「児玉文庫」という歴史的に意味のある資源を持っていて、またその資源を案内する観光ボランティアガイドの仕組みもありすでにそのガイドは活躍している。ただ、このガイドは基本的にボランティアで運営されガイド料も無料となっている。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

今回は自然資源というよりも周南市の歴史資源中心に触れる機会であった。この地に生まれ育った「児玉源太郎」の足跡が、周南市中央図書館周辺の数百 m 四方に点在し、その足跡を上記の観光ボランティアの方の案内で歩いた。翌日には、児玉源太郎直系の浅見道子さんのお話を伺い、児玉源太郎が残した「児玉文庫」について、そして残念ながら児玉文庫が焼けてしまったその時の様子までお聞きした。

●アドバイス（講義等）の概要

川嶋からの講義としては「エコツーリズムとは何か?」「着地型観光と発地型観光」「観光とは」「エコツーリズム推進法」「エコツアーに必要な人材」「エコツーリズムの課題」などについてお話をした。当日集まった皆様の考え方の地ならし作業を意識した。

また、翌日のディスカッションのために「KP法（紙芝居プレゼンテーション法）」の実習も行った。このKP法のスキル獲得が目当てで集まった方もいて、そうした方々も「児玉文庫」を柱にしたエコツーリズムを考える機会に触れて頂けたことは良かった。

初日のボランティアガイドさんのガイドについて、インタープリテーション（人と対象との間の通訳）が本業の私から見て気になった点を数点具体的にガイドの方にお伝えした。今回はそもそもそうしたアドバイスは求められていなかったため、いつか機会があったら別の機会にアドバイスしようと思っていたが、ガイドさんから「ぜひ気付いた点を教えて欲しい」との強い要望があったので以下の点をアドバイスした。

「参加者の歩くスピードに合わせて歩くこと（今回のガイドの方はドンドン先に歩いて言ってしまう、説明ポイントで皆様を待つという感じでした）」「話し終わったら必ず『何かご質問は?』と聞く、あるいは話している途中でやりとりが出来るような雰囲気作りをすること」「出発時点で人数を確認し、いくつかのポイントでも人数をいつも把握しておくこと」「せっかく配布した地図を全く使わなかった『今ココです、これからココに行きます』などと使うべき」「大切なキーワードは書いたものを見せるようにすること。クリアファイルなどにキーワードを大きく書いた紙を入れて、ポイントでの解説毎に大事なキーワードだけでも見せるようにすると良い」等をアドバイスした。

また、2日目の全体でのディスカッションでは、児玉文庫そのものの価値を伝えることも良いが、児玉文庫を産んだ児玉源太郎を育てた周南市のどのような風土があったのか?その風土を言葉化するところから、明治初期から今にまでストーリー（物語）が繋がるのではないかと?その言葉化された風土こそ、今の周南市の「光」であるはずだし、それを見せるのが「観光」なのではないかと思う。というようなこともアドバイスした。

●全体構想への取組状況・意向について

まだ、エコツーリズムへの取り組みは「これから」という地域だが、地域ポテンシャルが高いことと、地域の図書館という文化的施設がこうした音頭をとっていることに、大きな可能性を感じた。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

周南市はエコツーリズムへの取り組みを始めたばかりというか、これから始めようとしているところ。しかし、図書館を中心として歴史資源としての地元の「文庫」の意味を再考することを通して、地域の価値を見なおしてゆくという作業は非常に興味深い作業と思えた。

ちょうど周南市の玄関である徳山駅ビルの再開発に、TSUTAYA を運営する企画会社である CCC が関わろうとしており、佐賀県武雄市の CCC が企画した図書館の様に、人が集まる新たな装置としての図書館という意味が期待されている。今回の2日間の研修に、この中心市街地活性化協議会の上野さんが中心的に関わっていらしたことは、今後の周南市のエコツーリズムを軸としたまちづくりの可能性に大きな可能性を感じた。